
JSCA公認指導者検定会シーカヤック応用課程 愛媛県しまなみ海道会場／募集要項

- 主催：一般社団法人 日本セーフティカヌーイング協会
- 主管：アクロス瀬戸内カヌースクール（JSCA公認校）
- 期日：2018年12月4日（火）、5日（水）、6日（木）
- 集合場所：道の駅「伯方S・Cパーク」（伯方島）愛媛県今治市伯方町叶浦甲1668-30
- 宿泊及び室内検定：みやくぼ石文化交流館（大島） 愛媛県今治市宮窪町宮窪3543
- 課目費用等

課目：シーカヤック応用課程

費用：36,000円

★検定費用には、宿泊費、食費、移動費等は含まれておりません

- 担当：JSCA 公認指導者トレーナー 西胤正弘、嘉藤暖博、阪井雄司、（予定）

■ 受験資格

- 1) 受験する年の4月1日現在、18歳以上の者
- 2) 下記の指定講習修了者（講習修了書のコピーを申し込み時に提出）

【心肺蘇生法講習】 受験日から過去2年以内に下記いずれかの講習を受講済みであること。

★JSCA-CPR講習

★消防局：普通救命講習

★日本赤十字社：救急法・基礎講習

★MFAジャパン：成人救命救急法コース（MFAベーシックプラス）

★他、匹敵する講習、資格（要問合せ）

3) 下記条件をいずれも満たす者

★JSCA教養課程受験経験（可否は問わない）

★JSCA基礎課程受験経験（可否は問わない）

■ 検定会の実施概要

受験者は「規程集・検定規定」（JSCA ホームページに掲載）および内容が明記された「検定課目ガイドライン抜粋」（別紙）を必ずお読み下さい。

検定会は会場により実施種目や課目が異なりますのでご注意ください。

- 1) 各課程の講習と試験を行い、試験に合格することにより単位が取得できます。
- 2) 必要単位を取得し、本人の申請と理事会承認により認定されます。
- 3) 合格者は JSCA 指導員として登録県と氏名が紹介される場合があります。不都合のある方は、申請時に協会事務局へお申し出下さい。
- 4) 検定会中において撮影された写真、ビデオ等の肖像権は全て主管、および協会に帰属します。

■ 参加・滞在に関する注意事項

★宿泊：みやくぼ石文化交流館。室内講習や検定にも使いますので、全員宿泊をお願い致します。

素泊まり2,000円～3,000円程度（宿泊人数により変動します。）清算は当日行います。

前泊、後泊をご希望の方は事前にお知らせください。

★食事は外食及びコンビニで調達。

★車で数分の場所にコンビニがあります。

★レンタル用具：艇一式5,000円（3日間）。

■ 持ち物

- ・検定課目ガイドライン
- ・事前課題などの資料（申し込み後送付します）
- ・カヤック一式（レンタルも可）
- ・パドリングウエア、ヘルメットなど

■ 申込方法

所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、アクロス瀬戸内カヌースクール阪井宛に郵送にてお申し込み下さい。

参加費はお申し込み後、銀行振込または現金書留のいずれかの方法にてご精算ください。

申込用紙受領後、当日のタイムスケジュール、事前課題などの資料をお送りします。

■ 締切 2018年11月22日（木）申込書必着（定員に達し次第締め切ります）

■ お申し込み先・お問い合わせ先

アクロス瀬戸内カヌースクール（阪井）

〒671-1151

兵庫県姫路市広畑区早瀬町2-37-2 TEL 090-8232-6145 ax-sakai@meg.winknet.ne.jp

■ 振込先

三井住友銀行 姫路支店 普通口座 3496125 阪井雄司（サカイ ユウジ）

一般社団法人 日本セーフティカヌーイング協会（JSCA）事務局

〒240-0105神奈川県横須賀市秋谷4296-5 （有）コアアウトフィッターズ内

TEL & FAX 046-856-8455

Email jscajimu@isca.net

指導者検定会・課目ガイドライン・2018年版 抜粋

■応用課程(9単位):シーカヤック

安全な指導をするに当たり、指導するフィールドに適した技術や知識を身につけ実践しているか、初心者指導における最低限の指導技量や知識があるか、そして全てに渡りセーフティ・ジャッジメントがなされているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目	内容	
安全技術	1) 海洋フィールド	海洋フィールドの基礎知識 ・海の特徴、気象事象 ・海上交通法規 ・海図、潮汐表、他情報収集
	2) ナビゲーション	コンパスワーク ・基礎知識と実習
	3) リスクコントロール	危険の認識と対処 ・潜んでいるリスクの確認:フィールド、ギア、技量(個人、チーム) ・リスク予知と判断
	4) ツーリング	ツーリングの計画と実習 ・情報収集とプランニング ・模擬ツアー・ツアー結果の把握
	5) レスキュー	波のある海面で、漂流者及び自身の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施
漕艇技術	6-1) ポートコントロール:サーフゾーン	50cm~1m 程度の波が打ち寄せているサーフゾーンで実施 ・自身の上陸&出艇を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な上陸&出艇の誘導を実習
	6-2) ポートコントロール:潮流	3 ノット程度の潮流で実施 ・自身の潮流横断を複数の場所で数回実施 ・初級者の安全な潮流横断の誘導を実習
	7) ロール	波のある海面(もしくは同等と認められる状況)でのロール 完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右いずれか片方を1回実施 ・技法、フル、ハーフは問わない
指導技術	8) 模擬講習	受験者同士による模擬講習形式での実習 ・対象は初心者と仮定する ・陸上講習 ・静水講習

※6-1)サーフゾーン、6-2)潮流は、会場によりどちらかを選択実施

●判定の目安

★安全技術:実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

1) 海洋フィールド:90 分程度の講義受講後、30 分程度のペーパーテスト実施

・ 必要な知識を身につけているか

2) ナビゲーション

・ 現在位置、進路を合理的に示しているか ・ 地図とコンパスを正しく使えているか

3) リスクコントロール:90 分程度の講義受講後、30 分程度のペーパーテスト実施 ・ 必要な知識を身につけているか

4) ツーリング

・ 提出された計画書の考察

・ 無理のない、安全に配慮された計画が立てられているか ・ 現場での状況判断が的確になされたか

・ 現在位置を常に把握しているか

5) レスキュー

・ 状況判断が的確になされてか

・ 作業は迅速にされたか

・ レスキューする上でのボートコントロールがされていたか

★漕艇技術:実践するフィールドでの艇操作技術の評価

6-1) ボートコントロール:サーフゾーン

・ 波を読んで安全かつ的確に上陸及び出艇が出来ているか ・ サーフィン状態で安定しているか

・ 波に対して安全に効率良く艇をコントロールしているか ・ ビーチでの危険を理解し、的確に誘導できているか

6-2) ボートコントロール:潮流

・ 流れを読んで効率良く横断しているか

・ スタンディングウエーブが利用できるか

・ 流れに対して安全に効率良く艇をコントロールしているか ・ 参加者の動きを理解し、安全に的確な誘導が出来ているか

7) ロール

- ・ 完沈状態になったか
- ・ 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか ・ 身体(特に肩)に無理のないスキルを使っているか

★指導技術:初心者講習における指導技量を評価

8) 模擬講習

- ・ 初心者に対し分かりやすい講習をしているか ・ 安全配慮がなされているか
- ・ どのようなコミュニケーションがなされたか

●使用艇について

- ・ バウ、スターンともに、水密の隔壁が装備されたハードハル(リジッド)タイプのシーカヤックを使用し、デッキラインのついているものが望ましい
- ・ ヘルメット、ビルジポンプ、パドルフロート、コンハパス、トウライン持参が望ましい

2. 評価と認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「安全技術」「漕艇技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、応用課程・9単位を認定する。